

September
2014

The Record

vol.658

「ハイレゾ」が紡ぐ音楽風景 ～ Don't think, feel.

「ミュージック・ジャケット大賞 2014」受賞作品発表



<http://www.riaj.or.jp/lmark/>



Contents

Monthly News Digest..... 1

特集

「ハイレゾ」が紡ぐ音楽風景
～ Don't think, feel. 3

特報

「ミュージック・ジャケット大賞 2014」
受賞作品発表 10

ヒットの裏側 11

Data File..... 12

Monthly Production Report 13

GOLD DISC 14

7/30

第56回RIAJセミナー開催

7月30日、当協会会議室において、第56回RIAJセミナーが開催された。今回は三上安雄弁護士を講師に招き、「メンタル不調社員への対応と労働時間管理について」をテーマに取り上げた。

「メンタル不調社員への対応」については(1)労災と企業の賠償責任(2)私傷病、の2つのポイントから、「裁量労働制における労働時間管理」については(1)導入・運用に関する注意事項(2)過重労働の防止、の2つのポイントから、それぞれ具体的事例の紹介や留意点などの解説が行われた。

当日は、会員社の人事・総務担当者を中心に37名が参加した。

8/2・3・9・10

STOP! 違法ダウンロード広報委員会、ROCK IN JAPAN FES.2014にてブース出展

音楽関係7団体(日本音楽事業者協会、日本音楽制作者連盟、日本芸能実演家団体協議会実演家著作隣接権センター、日本音楽出版社協会、演奏家権利処理合同機構MPN、映像実演権利者合同機構および当協会)で構成するSTOP! 違法ダウンロード広報委員会は、8月2～3日・9～10日に茨城県・国営ひたち海浜公園で開催された「ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2014」にて、「守ろう大切な音楽を」をテーマとしたブース出展を行った。

ブース内ではクイズ抽選会およびエルマークイメーজキャラクターの「エル

マーくん」ノベルティの配布を実施し、来場者に対し著作権保護の重要性を呼びかけた。

また、場内2ステージ(GRASS STAGE・LAKE STAGE)横のヴィジョンにて、5月1日に公開した啓発ビデオ「GOOD CLICK CREATES GOOD MUSIC!」の上映を行った。



8/4

ブライダル業者向け説明会開催

8月4日、当協会は、一般社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)・一般社団法人音楽特定利用促進機構(ISUM)の協力を得て、ブライダルコンテンツ(結婚披露宴におけるBGM・プロフィールビデオ等の演出コンテンツや記録ビデオ)の制作事業者等を対象に、音楽利用許諾スキームに関する説明会をJASRAC会議室にて開催した。当日はBIA(公益社団法人日本ブライダル文化振興協会)会員社をはじめ、約70名の参加があった。

はじめに、当協会著作権・契約部 楠



このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す一般社団法人日本レコード協会の登録商標です

本部長および JASRAC 複製部 野方部長から、ブライダルコンテンツ制作時における音楽の利用について、著作権・著作隣接権の利用許諾に関する手続の説明が行われた。その後、ISUM アレクサンダー・アブラモフ代表理事から、システムを介した利用許諾手続の紹介があり、質疑応答のセッションを通じて、参加者の理解が深められた。



8/15~17 JIMCA、コミックマーケット86 にて「STOP! 違法ダウンロード 啓発キャンペーン」実施

日本国際映画著作権協会（JIMCA）は、8月15日から17日に東京国際展示場（東京ビッグサイト）で開催された「コミックマーケット86」企業ブースにおいて、「STOP! 違法ダウンロード」をテーマにイベントを実施、当協会も協力を行った。JIMCA の同イベントへの出展は昨年引き続き、二回目となる。

期間中は、コミケ限定のオリジナル啓発 DVD および『STOP! 違法ダウ

ンロードキャンペーン』と人気アニメ『まじもじるるも』のコラボレーションによるオリジナルショッパーの配布が行われた。また、声優・遠藤ゆりかさんのミニトークショーや、カメラ男との写真撮影会には、全国から多数のファンが駆けつけ、盛況のうちに終了した。



「第21回日本プロ音楽録音賞2014」開催

一般社団法人日本オーディオ協会、一般社団法人日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、一般社団法人演奏家権利処理合同機構、および当協会の5団体が主催する「第21回日本プロ音楽録音賞2014」の開催が決定した。

同賞は、音づくりを通じて音楽とオーディオ文化の向上に努める、録音エンジニアの感性と技術を評価し、音楽制作および録音に対する一般ユーザーの認識を高めることにより、音楽とオーディオ産業のソフト分野における一層の技術の向上ならびに録音エンジニアの地位の確立を目指すものである。

日本国内において企画され、2013年9月1日から2014年8月31日までの間に初めて発売、または公に放送・配信された音楽録音作品が審査の対象となる。

【応募作品の分類および授賞区分】

- | | |
|-------|---|
| 部 門 A | 2ch パッケージメディア：クラシック（CD・SACD・DVD・BDの2chステレオ） |
| 部 門 B | 2ch パッケージメディア：ジャズ・フュージョン（CD・SACD・DVD・BDの2chステレオ） |
| 部 門 C | 2ch パッケージメディア：ポップス・歌謡曲（CD・SACD・DVD・BDの2chステレオ） |
| 部 門 D | 2ch ノンパッケージ：ジャンルを問わず |
| 部 門 E | サラウンド・サウンド：ジャンルを問わず（パッケージメディアおよび配信音源等のマルチchサラウンド） |
| 部 門 F | 放送メディア：2chステレオ（ラジオ番組：AM・FM・衛星放送／テレビ番組：地上波・衛星放送） |
| 部 門 G | 放送メディア：マルチchサラウンド（テレビ番組：地上波・衛星放送） |

ベストフォーマー賞 部門A～Eの全応募作品よりベストフォーマーを選定

新 人 賞 部門A～Eの全応募作品より選定（ただし、応募時年齢35歳までのミキシング・エンジニアによる作品を対象とする）

「ハイレゾ」が紡ぐ音楽風景 ～ Don't think, feel.

音は姿形がなく、目に見えない存在である — とは言え、ヒグラシの鳴き声や風鈴の音色を耳にすれば夏の夕暮れを思い、同時にスイカ、枝豆…と視覚や嗅覚、味覚までフル活用した脳内連想ゲームがはじまる。音楽もまた然り、アーティストが作品に込めた心情とリスナー個人の情景や想念などが結びつき、感動の扉が開かれる。歌はダイレクトに心を繋ぐ。

感動を呼び起こす脳のメカニズムについては「ハイパーソニック・エフェクト」（人の耳では聞こえない超高周波音を、実は人間は身体全体で受け入れ、それにより脳が活性化し精神や肉体にポジティブな影響を与える現象）の研究が進められているという。

人の可聴帯域は20kHzまで、耳に聞こえない音はカットし収められているのがCDである。ところが音楽、自然音など人間の知覚の範囲外にも、生の音は多数存在し溢れている。人間は、知覚の限界を超えた音も含まれる空間に身を置けば、本来聞こえないはずの音も感覚として捉え感じ、その豊かなサウンドに感動する～ CDとライブで受ける感動の違いを思えば納得がいく。

そこで、「ハイレゾ」である。CDではカットされる高周波も含むハイレゾは、表現の幅が広がり音楽自体が持つポテンシャルを最大限に発揮する存在と言えよう。アーティストが精魂込め仕上げたサウンドそのままを直送便の如くリスナーに届けることが可能な時代が到来した。体験した人々が次々に開眼するという生身の空気感・スケール感を全身で浴び、その芳醇な音楽世界を味わっていただきたい。

ハイレゾ音源とは？ ハイレゾ=High (高) Resolution (解像度)

音楽CD (44.1kHz/16bit) の特性を上回る情報量を有する音源。そのきめ細やかな音は、CDでは表現ができなかった録音スタジオやコンサートホールで聴いているかのような空気感、臨場感を忠実に再現する事が可能である。

CDとの比較

種類	サンプリング周波数	量子化ビット数	1秒間の情報量	CDとの差
音楽CD	44.1kHz	16bit	1411.2kbps	1.0倍
ハイレゾ音源	96kHz	24bit	4608kbps	3.3倍
ハイレゾ音源	192kHz	24bit	9216kbps	6.5倍

ハイレゾは音楽の伝える力を、
高めてくれる。
この魅力的なフォーマットを、
音楽業界全体で広げていけるといい。

INTERVIEW → 01

くるり

1996年の結成以来、古今東西さまざまな音楽を組み入れ、多彩な音楽の創造を続けてきたバンド、くるり。彼らは今年の4月、ハイレゾ音源でシングル2曲（ロックンロール・ハネムーン、ロックンロール・ハネムーンtofubeat remix）の配信をスタートした。

くるりが音楽を届ける手段として、ハイレゾのフォーマットを選んだ理由とは何か。そして、ハイレゾがもたらすものを、どうとらえているのか。

メンバーの岸田繁氏（写真左）、佐藤征史氏（同右）のお二人に、ハイレゾに触れたきっかけから、その魅力やインパクト、期待感などを含め、ハイレゾへの熱い思いを存分に語っていただいた。

ハイレゾの魅力

～ 音と音の隙間が見え、音楽の「部屋」が広い感覚
音を可視化できる手ごたえ、作り手も意識が変わる

ーハイレゾ音源との出会いとは、どういうものだったのでしょうか。またその時に感じたことをお聞かせください。

岸田 以前、矢野顕子さんのアルバムに参加させていただいた時、DSD仕様でレコーディングしたんです。それを聴いたときは、びっくりしましたね。僕たちは、アマチュア時代のアナログテープから、今のPro Toolsに至るまで、さまざまなレコーディング形式を経験していますが、録音した音を聴いて、単純に音がいい、クリアだと初めて意識したのは、このDSD録音の時でした。とは言っても、バンドでは、音楽的な構成要素もその時々で変え、いろんな場所で録っています。その過程で、常々いい音にしたいと思っていますけど、あえてDSDほどのクリアな音にこだわらず、昔ながらの手法で音をつぶしてみたりすることもありました。

最近になって、ある知人の助力で、ハイレゾ音源で自分たちの曲を聴く機会がありました。普段、CDやMP3の音を聴きながらいる耳で聴くと、その音楽の「部屋」に配置されている音と音の隙間が見えて、「部屋」が広く感じられました。

ーおっしゃるように、立体感が際立ちますね。

佐藤 自分らは、スタジオでPro Toolsを使って、概ね24bit96kHzでレコーディングしていますが、それってハイレゾ環境そのものですね。でもスタジオでは、リスナーではなく、音楽のプレイヤーとして聴いています。Pro Toolsが進化して、音の空気感が溶け合う良さも知りましたが、それは、レコーディングの再現率がよくなったなあ、という印象に過ぎず、作品を「聴く」ことに、直接結びついていませんでした。作品はあくまでもCDですから。

自分たちの音をハイレゾで聴いて、びっくりしたんですよ。CDの音とは違って、音の奥行きがちゃんと見える感覚があって、

これをリスナーに聴いてもらえるなら、ミュージシャン冥利に尽きるなあ、と思ったんです。ハイレゾをリスナーとして初めて意識したわけです。

岸田 自分たちの音楽は、どういうものかよくわかっていすからね。今までは、再生の段階で、あきらめざるを得ない部分もありましたが、そこもハイレゾならば再現が可能になる。聴き方だけでなく、作り手も変わるな、と思いました。

ー「作り手が変わる」というのは面白いですね。

岸田 映像でいえば、ハイビジョンになって、役者さんの表情の細かい部分まで見えるようになるのと同様のことでしょうか。自分の表現の、これまで外に出なかった部分までちゃんと聞こえるようになって感じます。僕らは、演奏で非常に大事にしていることがあります。たとえば音量のダイナミクスだったり、倍音でチューニングを合わせて歌い、かつ楽器のアンサンブルを組んだりすることなんですけど、それがCDでは、外へ伝わらないところがあった。ハイレゾなら、それがちゃんと聞こえて、わかってもらえるんじゃないかなと思うんです。

佐藤 僕はベースを担当していますが、ミキシングでは通常、ベースを一番下に持ってくるんです。自分にとって、非常にうまく仕上がったと感じた作品も、CDで聴いてもらったときに、リスナーの方にベースがよく見えないと言われたことがありました。ハイレゾでは、キックとベースの境目が見えるというか、隙間がわかって各自のプレイがよく見えてくる。音を可視化できるという手ごたえがありますね。

ーリスナーにも驚きがあり、作り手にもやりがい広がるということですね。

岸田 どちらにしても、いいことづくめだと思うんですよ。再現できる帯域が広いことが、どう作用するか考えたんです。音の多いものや、音が立体的に組まれているものを、ゆとりを持って聴けるという意味でも、素晴らしい。ダイナミクスの大きい音楽、たとえば大編成オーケストラによるクラシックでは、ピアノシモからフォルティシモまで音量、音圧にすごい差がありますよね。小さい音には小さい意味があるわけで、そのあたりをハイレゾなら、より意図がわかるようにできるんじゃないかな。ジャンルで何がいいか、というわけでもないんだ、たぶん録音や演奏の状態で、ハイレゾで楽しいかどうかが決まってくるんだ、と思いつつあります。

ハイレゾ普及への期待を語る

～ CD発売当時の高揚感に溢れた様な、業界全体の
大きなうねりを切望

岸田 ポータブル機器でハイレゾを聴いていますけど、いいんですよ、すごくいい。イヤホンは耳に悪いといいながら、耳にぶっ差してウロウロしながら聴いています。外で音楽を聴くのがすごく楽しくなりました。



岸田 繁氏

ARTIST →
INTERVIEW

ーレコード会社のトップの方々も、皆さん同じようなことをおっしゃいますね。ハイレゾは一回聴いたら癖になる、はまるよって。

佐藤 ポータブルでラクチンに聴けるのもいいところですよ。

岸田 今、若い人たちは部屋で音楽を聴くときも、イヤホンやヘッドホンをよく使っています。この流れのなかで、いい音で聴くことを求めた時、可聴域の広いハイレゾ音源を配信で手に入れて、対応するイヤホンやヘッドホンで聴くというのは、自然な流れだと思います。いい音を嫌いな人はいないでしょう。僕は子どもの時、レコードやテープからCDに変わって、「銀色の円盤が回って、キラキラした音が出てる！」と興奮しました。それと同じようにダウンコンバートされた音を「便利だし、これでいいや」と聴いていた人たちが、ダウンロードでいい音で聴けることを体験したら、状況は大きく変わると思います。

佐藤 昔はCDを買えなくて、レンタルしてテープ録音していました。当時はテープもノーマルポジション、ハイポジション、メタルといういろいろあって、自分らのチョイスで使っていました。メタルなら、もう一生もの、という感じでね。今は、そんなチョイスをリスナーの方々が、思い思いに行使できる状況だと思うんです。聴く機器は買ってもらわなければならないですが、それは自分らが、テープを選んでいた時と似ている。魅力的なアイテムがあったり、手軽に楽しめる機器があれば、手が伸びる。音楽業界、機器メーカーでそういうものを、どんどん送り出す流れを作ることが大事だと思います。レコードからCDに変わった時もそんなうねりがありましたよね。

岸田 海外の配信ビジネスが日本に入ってきて、日本の音楽産業は混乱した状況が続いているんじゃないでしょうか。業界にある、CDが売れないことにつきまとう不健康なムードが僕は嫌なんですけど、グローバリズムは日本の音楽の実情に合わない部分があると感じます。たとえばアメリカは個人の家も大きいし、大きいオーディオ機器でCDやMP3をいい音で聴く環境を整えやすい。でも日本は違う。イヤホン文化が発達して、携帯のダウンロード文化も定着している。それはいい意味で、日本独自のガラパゴス的な音楽文化の発展につながるんじゃないでしょうか。

佐藤君も言いましたが、機器メーカーの方々には、ハイレゾ対応の機器をプッシュして、リスナーの方々に体験してもらう機会をどんどん設けてほしいと期待しています。期待というよりも、切望ですね。

ーくるりさんが、今回リリースされたハイレゾ音源のシングル2曲について、リスナーの皆さんの反応はどうでしょうか。

岸田 まだ誰も聴いていないんじゃないかな、という状況です。とりあえず出しましたという事実があるだけです。今までと違うプロモーションが必要じゃないかと思っています。やはり、業界全体での取り組みが不可欠です。

僕はアナログも好きで、真空管のアンプで、いい針をつけて温めてから、いいコンディションのレコードを聴くといった、懐古趣味へ回帰する楽しさもわかりますし、思い入れもある。でもそんな懐古的な人間が、座りがいいな、と感じるハイレゾは、多くの人に良さを共感してもらえんと思うんです。それだけチャンスの広がる規格だと確信しています。

佐藤 たとえばCDを購入した方に、ハイレゾ音源のダウンロード権を差し上げる、といったやり方もありますよね。

岸田 グッドアイデアですね。アルバムの初回限定はそれにしようか。

ハイレゾが広げる未来を語る

～ 伝わるメッセージがけた違いに迫り、音楽でできることが増える

ーハイレゾが出てきて、音楽の環境も変化する中で、くるりさんは、今後、どのようなことに取り組みたいとお考えですか。

佐藤 10年後には、もっと生に近い音の再生が一般的になるかも知れません。技術のターニングポイントにある今、皆さんにどれだけその入り口を広げて、いい音をお届けできるか。アーティストとして、がんばっていききたいところです。

岸田 音楽にできることを、新しく作り上げられればと思っています。僕は、18世紀あたりの古楽器のオーケストラを主宰

佐藤 征史 氏



する指揮者、ニコラウス・アーノンクールを大変尊敬しています。そのオーケストラの演奏で、モーツァルトのアイネ・クライネ・ナハトムジークを聴いたんです。普通に聴けば楽しい曲ですけど、その演奏は、まったくイメージが違って、恐怖を覚え、複雑な感情に襲われました。彼は、その時代にはこう演奏されていたのだと述べていますが、僕らが知っているカラヤンやバーンスタインが広めたCDに適したクラシック音楽とは異質のものでした。もともとあった倍音の成分を通して伝わるメッセージが、ケタ違いに迫ってくる。この演奏自体は懐古主義ですが、こういった音楽のあり方も、ハイレゾなら近づけるんじゃないか。リスナーがボタンを押すだけで、豊かなイマジネーションを膨らませられる音楽を届けられるんじゃないかと思ったんです。

—その曲の持つ本来の力を、リスナーにもっと近く感じてもらえるわけですね。

岸田 それができると、喜怒哀楽だけでなく、その中間の機微を味わえたりもする。音楽のできることが増えて、楽しくなると思います。

CDが終わって、これからはライブの時代だよ、という声もありますが、僕は違うと思います。ライブのPAシステムも同じ問題を抱えている。本当のライブにしようと思えば、生楽器だけで、小さい場所でやるしかない。ハイレゾで、再生のフォーマットがやっと更新されたわけですから、そこをぐっと押していきたいですね。

佐藤 ハイレゾで聴く環境が普通になっていくと、作り手も、いい音を出すことに、今まで以上に力を注ぐようになると思います。自分の音を聴いたときに「あれ？」と思いたくない。自分らも、楽曲の空気になじむ音を、しっかり緻密に作ることを、追求していきたいと思っています。

岸田 理想、目標も高くなるということです。

—岸田さんが「作り手を変える」と言われたことの本質ですね。

佐藤 そういう意識を持って取り組めば、作品になった時の喜びも大きいでしょう。

—1リスナーとしても、それだけ濃密なものをいただけるのは、楽しみです。

佐藤 くるりでは、次のアルバムですごく緻密な音づくりに取り組んでいます。リスナーの皆さんに、いい環境で聴いてもらいたいなと切に願っています。また一方で、演奏している人の立ち位置や、プレイの呼吸や緊張感、空気感といった感覚をふんだんに味わってもらえる、より人間的なライブ感のある作品もハイレゾ環境で作ってみたいですね。

「ここの小節でスネアが入ったから、この後の展開はこうなった」とか、演奏側が日々積み重ねる空気感をわかっていただけたらと思います。

—プレイの素人でも、そういう感覚を楽しめるのはワクワクします。

岸田 音楽の伝え方、伝わり方が変わりますね。可能性のあるハイレゾをぜひ、広めていきましょう。



PROFILE

■くるり・プロフィール

1996年9月頃、立命館大学（京都市北区）の音楽サークル「ロック・コミュニケーション」にて結成。

現在のメンバーは岸田繁、佐藤征史、ファンファン。古今東西さまざまな音楽に影響されながら、旅を続けるロックバンド。9月17日に約2年ぶりのニューアルバム「THE PIER」をリリース予定。

今作の初回限定盤には、アルバム収録曲「Liberty&Gravity」のハイレゾ音源がダウンロードできるシリアルコードが付くことも話題に。

(くるりHP) <https://note.mu/quruli> <http://www.quruli.net/>
(SPEEDSTAR HP) <http://speedstarrecords.com/>



2014年9月17日発売
ニューアルバム「THE PIER」

初回盤はハイレゾ音源をダウンロードできるシリアルコードを付属

【初回限定盤】 VIZL-719 ¥5,000 (+TAX)
・全曲楽譜集付き7inchサイズジャケット仕様
・「Liberty&Gravity」ハイレゾ音源ダウンロードコード付き

【通常盤】 VICL-64167 ¥2,900 (+TAX)

くるり約2年ぶりのアルバム『THE PIER』は、メジャーデビューから15年間の集積をすべて内包したまま、飛躍的に進化した「新たなくるりの始まり」といえる作品となっている。



2014年4月19日配信開始
くるり初のハイレゾ配信作品

・ロックンロール・ハネムーン
・ロックンロール・ハネムーン
tofubeats remix

ファイル形式：WAV 96kHz/24bit / FLAC 96kHz/24bit
24bit/44.1kHzのマスター音源を「K2HDプロセッシング」
技術で高音質化 (<http://hd-music.info>)

INTERVIEW → 02

ビクタースタジオでは、2012年に音質にこだわるレーベル〔VICTOR STUDIO HD-Sound.〕を立ち上げ、e-onkyo musicでハイレゾ音源の配信を行ってきた。本年2月からはさらに、ハイレゾ配信サイト〔VICTOR STUDIO HD-Music.〕を開設、多方面からハイレゾの普及を進めている。ビクタースタジオ長の秋元秀之氏、同スタジオでサイト立ち上げやソフト開発に携わる鈴木順三氏に、取り組みの狙いや現状、市場拡大へのポイントなどを語っていただいた。

HD-Music
the cutting-edge music production space, Victor Studio.

<http://hd-music.info/>



ビクターエンタテインメント
ビクタースタジオ長
秋元秀之氏



ビクターエンタテインメント
ビクタースタジオ
デジタルソリューショングループ
ゼネラルマネージャー 兼
K2ラボラトリー ソフト開発担当
鈴木順三氏

スタジオから“産地直送”で届ける音楽。 産直の品質の高さを味わってほしい。

スタジオならではの特徴を生かし、キーワードは「カジュアル」

「〔VICTOR STUDIO HD-Music.〕を立ち上げたのは、スタジオだからこそできる、ハイレゾの魅力をお届けしたかったからです。」
秋元氏は、こう切り出した。

「e-onkyoでのハイレゾ配信で、当レーベルの楽曲がトップ10入りするなど結果は良好でした。しかし、ダウンロードの状況などをみていて実数を踏まえるとまだまだハイレゾ市場拡大への新たなアプローチが必要だと痛感しました。そこで、制作現場であるスタジオがユーザーと直接コンタクトすることでニーズを満たす質の高い音楽をお届けできるのではないかとの思いから、自ら配信サイトを展開しようという結論に至りました。」（秋元氏）

こうしてハイレゾ配信サイト〔VICTOR STUDIO HD-Music.〕が開設された。

「“産地直送”、できたての新鮮な音楽をお届けするイメージです。ハイレゾはスタジオで扱っているそのままの規格ですからね。」（秋元氏）

サイトのキーワードは「カジュアル」。音にこだわりのあるファンにも配慮しつつ、ライトユーザーもターゲットに、サイト構成を含む総合的なコンセプトは「簡単に、手軽に」を追求した。

開設後、約半年を経た状況を、鈴木氏が語った。

「7月末でアルバム380タイトル超、約5,700曲を提供しています。7月からアニメ関連レーベルFlyingDogのコンテンツも投入し、その反響に手ごたえを感じています。」

アニメ関連は好調でも、市場全体は成長段階。音楽を楽しむライトユーザー層への裾野の広がりが望まれる。

「また、別のアプローチとして家電量販店の方々にもスタジオでハイレゾに触れていただき情報交換していますが、一般ユーザーへつながる啓蒙も大切だと思っています。」（秋元氏）

需要の掘り起こしへ向け、全方位でアプローチ

ハイレゾ市場拡大へは、ラインアップの充実が不可欠だ。なかでも広く親しまれているポップス系のジャンルの拡充は大きなポイントで、旧譜はもちろん、新譜も含めた編成強化の体制で臨む。

「今後はコンスタントに楽曲を増やし、幅広い音楽ファンへの訴求を図ります。また過去のCDマスターしか現存していない名盤のハイレゾ化には、ビクターのK2HDプロセッシング*が活かされます。」（鈴木氏）

課題は、未体験のライト層の取り込みである。

「くるりさんが自らハイレゾ試聴体験の感想を発信した際は、大反響でした。ハードソフト両面展開に加えアーティストのメッセージは、何よりインパクトがあります。」（秋元氏）

ビクタースタジオでは、高校生や一般の方々を対象とするハイレゾ体感試聴会を定期的に開催するなど、機会提供にも余念がない。

「聴いていただければ良さは伝わります。大切なのは、質を落とさないこと。いくら産直でも、おいしいものを、次は注文しませんよね。常においしい音楽をお届けしなければならない。そこを基本に、全方位でお客様にアプローチしていきます。」（秋元氏）

*K2HDプロセッシング：CDフォーマットスペックのマスター音源からでもハイレゾ音源の制作を可能にするビクタースタジオが展開するオリジナル技術。CDでカットされた20kHz以上の高域情報を最大100kHzまで、本来あるべき姿に復元する。さまざまなジャンルの音源を、上位フォーマットへ高品位にアップコンバートすることを実現化させ、アナログやオリジナル素材のない過去の名盤のハイレゾ化も可能とする。

Pick Up

「ハイレゾ体感試聴会 in VICTOR STUDIO」レポート (2014.6.21)

約20名が参加し、はじめに最も広い301スタジオを見学。秋元スタジオ長から、メインエリアと各ブースの響きの違いや、機材解説など制作現場についての説明があった。普段はまず入ることのできない場所に、みな興味津々。

その後、コントロールルームに移動し、いよいよ試聴開始。AAC圧縮・CD・ハイレゾの各種音源比較試聴、さらにCDマスターからハイレゾ化する独自技術「K2HDプロセッシング」による音源の効果試聴も行われた。

ラージスピーカーを通して聴く圧縮音源は「けっこう良い!」が第一印象。しかしCD、ハイレゾと進むにつれ、音の立体感や艶が際立つのを実感。民生機器での試聴もあり、ハイレゾはスタジオ環境でなくても十分に楽しめることが分かった。同スタジオではハイレゾの楽しさを広めるため、今後も定期開催を予定。



INTERVIEW → 03

レーベルゲートの中川雄策氏、寺江有希氏より、ハイレゾ音源配信の現況、手ごたえや今後への期待などをご紹介いただいた。

mora ～ WALKMAN®公式ミュージックストア～では、昨年10月よりハイレゾ音源の配信をスタートした。moraの運営に携わる株式会社



<http://mora.jp/>

過去の名作もハイレゾで新たな感動。

音楽を聴く楽しみが増え、

市場拡大への期待が広がるフォーマット。

想定外だったアニメ関連コンテンツの盛り上がり

昨年よりソニーグループでは、ハード・ソフトの両面から、ハイレゾ市場の開拓を戦略的に推進している。レーベルゲートの中川氏は、こう語る。

「昨年末にハイレゾ対応のウォークマン、ZX-1を投入するなど、ハード面のラインアップを広げています。そこにタイミングを合わせてコンテンツの充実を図るべく、moraのハイレゾ配信をスタートしました。」

配信曲はジャンルを問わず幅広くカバー。ユーザーライクを徹底的に追求し、気軽にハイレゾが楽しめるよう、わかりやすいサイトづくりにこだわる。600からスタートしたアルバムタイトル数は、2014年の7月には、およそ2,300に上る。ユーザーの利用傾向について、同社の寺江氏はこう解説する。

「当初、高音質志向のあるジャズ・クラシックのファンからの注目を予想し、準備を進めていましたが、違いました。エヴァンゲリオンほかアニメ関連の反響がすごかったんです。発売タイトルや音質に関する情報などで、ネット上でも盛り上がっています。」

「アニメファンにはITリテラシーの高い方や作品に対するこだわりが強い方が多いため、この結果につながっているのでしょう。高音質ニッチにとどまらない手ごたえを感じています。」(中川氏)

ユーザーはエンジニアなど詳細情報もチェック、高音質のクオリティを重視

ハイレゾ売上は、配信売上全体の10%まで伸びている。往年の名作への反響も大きく、たとえばJ-POPでは、中森明菜、村下孝蔵などの作品がランキングの上位に入っている。

「私自身、ハイレゾの中森明菜を聴いて、元のイメージと違う良さを発見し、改めて彼女のすごさを実感しました。名作をハイレゾで聴いて、新たに感動できる。音楽を聴く楽しみがまた一つ増えて、ユーザーを惹きつけているのではないのでしょうか。」(寺江氏)

「ユーザーの眼は厳しく、クオリティ重視です。エンジニアなど、詳細情報がカバーされたものが売上上位にきています。また、タイトルの充実を求める声も圧倒的に多いですね。」(中川氏)

アーティストの関心も高く、作品のハイレゾ化への問い合わせも多い。従来配信には消極的だったアーティストも、「ハイレゾ

なら出してみたい」と意欲を示しているようだ。

ハイレゾの底上げを図るには～スマホでハイレゾ？

「新譜を通常音源とハイレゾ音源で出すと、ハイレゾが10～20倍という圧倒的な売れ行きを示すタイトルもあります。」(寺江氏)

音楽産業の中核に育つ芽が、もう伸びてきている。

「ユーザー層は30～40代男性が9割を占めていましたが、徐々に20代男性も増えていきます。市場拡大のキーは、若年層、女性層への普及です。アニメへの興味をフックに、さらなる浸透を図りたいですね。」(中川氏)

現状の課題は、データ容量が大きく、通信環境によってはダウンロードに時間を要すること。まだハードルは低いとは言えない要素もあるが、携帯キャリアはハイレゾ配信をスマートフォン・コンテンツの軸に加えたい意向を示しており、今後の環境整備は十分に期待できる。現在のステップより、さらに手軽にハイレゾを楽しめるスマートフォン機種も続々と発売されることが予測され、見通しは明るい。

「“スマホでハイレゾ”が定着すれば、顧客層も厚みを増していくでしょう。また独占先行配信で人気を博した、Led Zeppelinのジミー・ペイジさんは「ハイレゾは時代に必要なメディア」と語っていますが、こうしたアーティスト自身からの情報発信も、市場拡大を後押しする力になります。」(中川氏)

今後はライブ音源など、ハイレゾの特徴が活きるコンテンツの拡大もテーマとなる。

「たとえばアニメファンには、声優の生の話し声を聴きたいというニーズも高い。ライブはもちろん、アーティストのリアルな声を再現するオーディオブックの配信も加えていければ、アピール度が増すと考えています。」(寺江氏)

「アーティストの息づかいや、細かいニュアンスを表現できるのがハイレゾのよさ。いいコンテンツをどんどん加え、ユーザーの皆様にハイレゾの表す素晴らしい世界を味わっていただきたいですね。」(中川氏)



株式会社レーベルゲート
配信ビジネス部1課
課長

中川雄策氏



株式会社レーベルゲート
配信ビジネス部1課

寺江有希氏

INTERVIEW → 04

株式会社ソニー・ミュージック
コミュニケーションズの鈴木浩
二氏は、レコーディング、マス

タリングの双方を手掛ける稀有なエンジニアである。ソニー・ミュージックスタジオの現場で、多様なフォーマットの音楽作品づくりに携わってきた鈴木氏に、ハイレゾの印象とその魅力、期待を伺った。



株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
スタジオ&ネットワークカンパニー スタジオオフィス
レコーディング・ルーム課長 兼
マスタリング・ルーム課長 兼 チーフエンジニア
レコーディング&マスタリングエンジニア

鈴木浩二氏

リスナーが「音楽っていいな」と
再認識しじっくり音楽と向き合う
きっかけになることを期待しています。

レコーディング&マスタリングエンジニアは非常にレア、両者は別人格

エンジニアの仕事は、縁の下の力持ち。アーティストと一緒に、彼らの意図する音楽をつくるプロセスに関わります。アーティストが、この曲で何を訴えたいのかを感じ取り、作品にする。デフォルメするのではなく、ナチュラルに伝わるように調整していくのです。実のところ、そこでは「いい音」を過度に意識はしません。自分も音楽を聴いていると自然に体が動く。その動きを意識して感覚を研ぎ澄ませ、グルーブ感などを表現できるように、音のバランスや、高域から低域までの幅広い音色を考えて日々、取り組んでいます。とりわけ、リアル感は重視しているところです。

ポップスから始めたレコーディングの仕事ですが、クラシックのアルバムも手掛けるようになると、レコーディングからマスタリングまで、アーティストと一緒にトータルで行う機会が増えました。それをきっかけにしてノウハウを覚え、今は両方の仕事をしています。レコーディング、マスタリングそれぞれの仕事には大きな違いがあります。レコーディングは、ベースの音量、歌の強さや柔らかさ、スネアの音色といった細かい部分でバランスを見ることが必要です。一方、マスタリングは組み上がったものの全体の色合いや、聴いてもらうフォーマットの変化による違い、アルバムの起承転結などの全体を意識します。ある意味、別人にならないとできません。そのためレコーディング、マスタリングをどちらも手掛けるエンジニアは稀です。私にとっては、どちらも面白く、楽しいのですが。

ハイレゾは表現の幅を広げると同時に音の楽しみ方も広げる

レコーディングの現場は、技術が日々進化しています。私はテープの時代から仕事をしていますが、Pro Tools、DSDなどの機器の導入で今ではサンプリング周波数を自由に換えられるようになり、幅広いサウンドを追求できるようになってきました。一方でマスタリングは、入る素材が変化する中、お客様がどう聴くのかを常に意識し、想像しながら音づくりを行います。今までは、それが主にCD規格に落とし込むことでした。

ハイレゾが出てきたこの状況は、素直に嬉しいですね。圧縮する方向ではなく、広がる方向になったのがいい。規格自体は

別に新しいものではなく、これまでのレコーディング技術の積み重ねからきていますので、マスタリングでも苦労が少なくてすみます。また、表現の幅も広がる感触があります。高域成分が伸び、音の表現としては、空気感、空間の表現の幅が広がります。音の中に込める感情とか、アーティストの伝えたいことを、もっとリアルに再現できるんじゃないでしょうか。ささやきの表現などの微妙なニュアンスを、よりきめ細かく豊かにできるということです。リアル感を出せるのは、自分にとっても有り難い環境です。このように新しいものの登場で音楽の幅が広がることは、本当にわくわくします。

アーティストを含め、制作現場でもかなり盛り上がってきましてね。私のところにも「どんな音源がハイレゾにふさわしい？」といった問い合わせが増えてきました。今回の日本プロ音楽録音賞で、ハイレゾ受賞作のアーティストである渡辺香津美さんも、非常に興味を持たれていました。一緒にプレイバックを聴きながら、いろいろと感じ取っていただけた様子でした。

今まで、レコードやCDをはじめ、さまざまな規格の視聴環境が生まれ、私もそれをずっと見てきました。ただ、エンジニアとしては、規格にはこだわらず、「音楽をどう伝えるか」に集中しています。視聴環境の多様化は、楽しむカテゴリーが増えることですから、お客様にとってこそメリットが大きい。ハイレゾもカテゴリーの一つとして、音楽の楽しみを広げるように育ててほしい。「本当に音楽っていいな」と聴く方が感じて、もっと時間や費用をかけて音楽にじっくり向き合っていただけならと思います。これからもソニー・ミュージックスタジオの良い環境を活かした、皆様に楽しんでもらえるソフトづくりに、力を注いでいきたいと思っています。(談)

鈴木浩二氏 プロフィール

1985年にソニー・ミュージックスタジオのレコーディングエンジニアとして入社。数多くのレコーディングを手掛け、特にアコースティック楽器を中心とした作品で高い評価を得ている。95年からマスタリングも開始し、現在はチーフエンジニアとして、ポップス、ジャズ、クラシックの新譜からリマスタリングまで、幅広いジャンルで活躍中である。

第20回日本プロ音楽録音賞では2ch ノンパッケージ部門の最優秀賞をハイレゾ作品で受賞、さらに2ch/パッケージ (ジャズ/フュージョン) 部門においても最優秀賞を受賞。

(<http://www.japrs.or.jp/pmr/pmr2013.htm>)

特 報

Special Report

「ミュージック・ジャケット大賞 2014」受賞作品発表 - 好きな音楽があるように、好きな音楽ジャケットもきっとある! -



Music Jacket Promotion Committee が主催する「ミュージック・ジャケット大賞 2014」は、6 月号掲載の大賞候補全 50 作品について、「特設サイト (<http://mja.jpn.com>)」「Music Jacket Gallery 2014 会場」において一般投票を実施し、この度、受賞作品を決定した。

2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日の期間中に当協会会員社が発売した、洋楽を含む国内制作の音楽 CD を対象として募集したエントリー作品より選出された栄えある受賞作品を、コメントとともに紹介する。

大 賞 **miwa「Delight」** SRCL-8299 (ソニー・ミュージックレーベルズ)

2013/5/22 発売

Art Direction & Design : 中野 淳仁 (artograph)

(エントリー掲載コメント)

Delight = 歓喜、喜び。収録曲の歌詞にも何度か出てくる「花」を(大地の) 歓喜に例え、このアルバムを聴いたリスナーにも喜びの気持ちが伝わるように。との意味を込めたジャケット。

受賞コメント ARTIST : miwa

自分のアルバムでこんな名誉ある賞をいただけるとは想像してませんでした! まさにアルバムのタイトル通り "Delight (歓喜)" です (笑)。

このアルバムは、大学に通いながら音楽活動をしてきた私が、卒業を控え音楽一本でやっていくという決意を込めて作りました。自分の音楽はジャケット含めて大事な " 作品 " だと思っていますのでビジュアルスタッフチームとは特に気合いを入れてがんばりました。そんな作品がたくさんの方に支持していただけたこと、本当に嬉しいです。

スタッフはもちろん、店頭やメディアで紹介していただいた皆様、応援していただいた全ての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

デビューからほぼずっと一緒に miwa の制作チームともこの喜びを分かち合い、これからも素敵な作品を作っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



受賞トロフィーを手にする miwa さん。

受賞コメント ART DIRECTOR & DESIGNER : 中野 淳仁 (artograph)

「Delight」は miwa さんのデビュー以来ほぼ変わらないデザイン制作チームの集大成として作成されたもので、デビュー4年目のこの作品でご評価頂いたことを大変光栄に思います。

カメラマン岡田貴之さん、スタイリスト小川恭平さん、ヘアメイク佐々木篤さん、コーディネーター氏江正広さんはじめ、これまでの miwa 作品の制作に関わった全てのスタッフとこの喜びを分かち合いたいと思います。

今後もこれまで以上に miwa さんの音楽の世界観を伝えられるジャケット制作に全力を注ぐ所存です。この度は本当にありがとうございました。

準大賞 **星野 源「ギャグ」** VJCL-36780 (ビクターエンタテインメント)

2013/5/8 発売

Art Direction & Design : 大原 大次郎 (omomma)

(エントリー掲載コメント)

星野源の 5th シングル。ジャケットはこれまでの作品のアートワークを担当してきた大原大次郎氏



準大賞 **マキシマム ザ ホルモン「予襲復讐」** VPCC-81770 (パップ)

2013/7/31 発売

Total Direction : マキシマムザ亮君 Creative Direction : 川上 直人

Art Direction : 高橋 秀明 Design : 長谷 康平 / 小木野 圭悟 / 木村 太郎

Cover Illustration : SHOHEI Back Cover Illustration : 漫☆画太郎

(エントリー掲載コメント)

全てのデザインディレクションをマキシマムザ亮君が担当。CD ジャケットの概念を覆す 156 ページ漫画 5 作品収録のデジブック仕様。ホルモンの世界観をマキシマムに放出するアートワークは唯一無二!



特別賞 **a flood of circle「I'M FREE」** TECI-1371 (ティチクエンタテインメント)

2013/7/17 発売

Art Direction & Design : 渡辺 俊太郎 (BLUE BIRD d.)

(エントリー掲載コメント)

Vo&G 佐々木が重力からも解放され、フリーに浮かぶシルエットの背景は 12 面折ブックレットになっており、それを差し替えると曲数と同じ 12 パターンの構図を自由に楽しめる、正に " フリー " スタイルなジャケット。



※ (一次審査において最も得票数の多い作品となり、特別賞作品に決定)

準大賞・特別賞を受賞されたアーティスト・クリエイターから寄せられた受賞コメントは、特設サイト (<http://mja.jpn.com>) にて、ぜひご覧ください。

第5回

ヒットの裏側

多くの人を魅了したヒット曲は、どのように世に送り出されたのか。音楽人の苦闘が織り込まれた『ヒットの裏側』をリレー形式でひも解いていく。

坂本冬美「また君に恋してる」・由紀さおり&ピンク・マルティーニ「1969」 飽くなき挑戦と進化が運を引き寄せ、チーム力が運を実に変える

ユニバーサル ミュージック合同会社 EMI Records A&R 第2本部 Prime Music
部長プロデューサー 山口 栄光（やまぐち・えいみつ）氏



❖ 坂本冬美の新境地「語りの歌」

「アジアの海賊」（中村あゆみ作詞・作曲）で、ロックと演歌のコラボレーションに挑戦しようとしていた時のことでした。CM制作会社のプロデューサーから坂本さんに「また君に恋してる」を歌ってほしいと声がかかったんです。フォークの同曲は、今までの坂本さんの歌い方にある「語りの歌」への挑戦。カップリングでやろうと話がまとまり、2009年に両A面シングル発売に至りました。

さらに同年、カバーアルバム「Love Songs ～また君に恋してる～」に収録。アルバム制作にあたっては、50～60代のリスナーに、「演歌じゃない坂本冬美」でどこまで勝負できるか悩みました。結果、「自分が聴きたいもの」を作ろうと決意し、まずは「語りの歌」が活きるこぶしを使わない歌唱、自分が聴きたい曲を選びました。さらに我々の年代は音楽を車で聴くことが多いので、車中で聴いてみたい、曲間に至るまでの細かいところにもこだわりました。これらは一例で、歌い方、選曲やアレンジ、とにかく「自分が聴きたいもの」をとことん追求したアルバムです。初めて同級生の友人に自信を持って薦めました。「語りの歌」で、坂本さんの新たな武器が加わり更なる進化を遂げたと思います。カバーの声がかかったのは幸運ですが、細野晴臣、忌野清志郎との異色ユニットへの参加など多様な挑戦を積み重ねてきた経験があったからこそでしょう。

❖ 由紀さおりの新時代を拓いたコラボレーション

由紀さんも第一期の歌謡曲時代・第二期の童謡唱歌時代を経て、もう一度改めて歌謡曲に挑戦しようという思いがありました。芸能生活40周年にコンセプトアルバムを作ったものの、リスナーの反応は薄かった。次のアルバム制作にあたり、これまでと同じでは駄目だと悩んでいた時、由紀さんの曲をカバーしていたピンク・マルティーニが2010年3月来日。シークレットゲストとして由紀さんがライブに駆けつ

け、私も聴きに行きました。生で聴く彼らの演奏はとても心地よかった。早速、彼らとのコラボレーションを提案し、由紀さんもこれに賛成。こうしてプロジェクトがスタートしました。

ところが、「夜明けのスカット」が世に出た“1969年”の曲をフィーチャーすることは決まったものの、先方との作業が進まない。業を煮やして渡米しリーダーのトーマスを訪ねると、何と彼はこちらが提案した選曲に納得していなかった。選曲をはじめとして、アルバムタイトルや曲順など、私とトーマスの考えがぶつかることも多かった。その後も何度も渡米し、対話を重ねる中で、自分が譲れないことは貫き通しましたし、逆に相手から学んだこともたくさんありました。そうした積み重ねの末、翌年5月にやっと、奇跡のコラボによる新たな世界観を描いた「1969」が完成しました。

この挑戦にも、幸運が訪れました。日・米・欧でパッケージ発売したうち、米のみピンク・マルティーニのインディーズレーベル発売となり、EMI発売の他地域よりリリースが1カ月遅れに。その間にiTunesの購入が積み上がった結果、全米iTunesジャズチャート1位獲得につながった。そのニュースが日本に伝わりメディアを賑わせ、社会現象の域にまで広がりました。

入社以来、演歌の制作に携わる中で、私が大事にしてきたことは、常に今までにないものを作ろう、という意識で挑戦することです。ターゲット層は自分とほぼ同年代の50～60代。この方たちの心をどれだけ動かせるかと考えた時、自分が心からいいと思うものを作れば、きっと伝わるという信念で制作に取り組んでいます。

今回ご紹介したお二人は、まさに日本の宝と思っている歌い手であり、これまで新境地への挑戦を積み重ねてきた。その攻めの姿勢による積み重ねがヒットに結び付いた。さらに、A&Rや宣伝などスタッフの努力、運をどれだけ実に変えるかというチーム力もヒットを引き寄せてくれました。（談）

作品データ

- 坂本冬美「また君に恋してる」 ○ 2009年発売・同年にカバーアルバム「Love Songs ～また君に恋してる～」に収録
○ EMI ミュージックジャパン ○ 作詞：松井五郎 ○ 作曲：森正明 ○ 編曲：若草恵 ○ 2010年4月プラチナディスク認定
- 由紀さおり&ピンク・マルティーニ「1969」（アルバム作品） ○ 2011年発売 ○ EMI ミュージックジャパン
○ 2011年11月2日付アメリカiTunesジャズチャート1位獲得 ○ 第27回日本ゴールドディスク大賞「特別賞」受賞
○ 2012年2月プラチナディスク認定

2014年第2四半期（4月～6月）および上半期有料音楽配信売上実績について

2014年第2四半期は、数量で前年同期比92%の5,060万9,000ダウンロード、金額で前年同期比106%の109億5,200万円となった。
この結果、2014年度上半期の累計では、数量で前年比89%の1億104万2,000ダウンロード、金額で前年比103%の218億3,900万円となった。

(数量:千回/金額:百万円)

	形態	2014年4月～2014年6月 累計			
		数 量	前年同期比	金 額	前年同期比
	Master ringtones	3,324	56%	281	53%
	Ringback tones	13,710	84%	954	76%
シングルトラック	PC 配信・スマートフォン	27,988	125%	4,445	124%
	フィーチャーフォン	3,213	41%	841	40%
	小計	31,200	103%	5,286	93%
アルバム	PC 配信・スマートフォン	1,770	116%	1,984	124%
	フィーチャーフォン	15	980%	10	686%
	小計	1,785	117%	1,993	124%
音楽ビデオ	PC 配信・スマートフォン	477	88%	127	89%
	フィーチャーフォン	112	47%	37	45%
	小計	590	76%	165	72%
その他	サブスクリプション (PC 配信・スマートフォン)			1,957	277%
	サブスクリプション (フィーチャーフォン)			1	4%
	その他 (その他のデジタル音楽コンテンツ)			315	109%
	小計	0	-	2,273	220%
総合計		50,609	92%	10,952	106%

(数量:千回/金額:百万円)

	形態	2014年1月～2014年6月 累計			
		数 量	前年同期比	金 額	前年同期比
	Master ringtones	7,016	53%	605	51%
	Ringback tones	27,927	83%	2,022	78%
シングルトラック	PC 配信・スマートフォン	53,690	118%	8,610	118%
	フィーチャーフォン	7,345	44%	1,949	42%
	小計	61,034	98%	10,560	89%
アルバム	PC 配信・スマートフォン	3,783	121%	4,124	125%
	フィーチャーフォン	23	928%	16	634%
	小計	3,806	121%	4,140	126%
音楽ビデオ	PC 配信・スマートフォン	1,010	88%	274	90%
	フィーチャーフォン	249	45%	85	44%
	小計	1,259	74%	359	72%
その他	サブスクリプション (PC 配信・スマートフォン)			3,518	321%
	サブスクリプション (フィーチャーフォン)			3	5%
	その他 (その他のデジタル音楽コンテンツ)			632	108%
	小計	0	-	4,153	237%
総合計		101,042	89%	21,839	103%

注：数量・・・ダウンロード回数

Monthly Production Report

2014年7月度レコード生産実績

7月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）生産実績は、数量で前年同月比 95%の 1,793 万枚・巻、金額で同 100%の 202 億円となった。内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比 87%の 1,333 万枚・巻、金額で同 89%の 145 億円。音楽ビデオが、数量で前年同月比 132%の 460 万枚・巻、金額で同 145%の 57 億円となっている。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			7 月実績						2014 年 1 月～2014 年 7 月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
シ	8cmCD	邦	3	0	191%	2	0	181%	13	0	66%	9	0	65%
		洋	0	0	-	0	0	-	0	0	32%	0	0	46%
		計	3	0	197%	2	0	187%	14	0	66%	9	0	65%
ン	12cmCD	邦	5,233	39	101%	4,227	29	105%	31,387	32	90%	23,150	21	96%
		洋	13	0	10%	13	0	14%	572	1	113%	369	0	96%
		計	5,246	39	99%	4,240	29	103%	31,958	32	90%	23,519	22	96%
グ	小計	邦	5,236	39	101%	4,229	29	105%	31,400	32	90%	23,159	21	96%
		洋	13	0	10%	13	0	14%	572	1	113%	369	0	96%
		計	5,249	39	99%	4,242	29	103%	31,972	32	90%	23,528	22	96%
ル	12cmCD アルバム	邦	5,801	44	77%	8,093	56	82%	47,912	48	85%	65,748	61	91%
		洋	2,151	16	91%	1,973	14	92%	18,523	19	112%	17,423	16	115%
		計	7,953	60	80%	10,066	70	84%	66,435	67	91%	83,170	77	95%
CD 合計	CD 合計	邦	11,037	83	87%	12,322	85	89%	79,312	80	87%	88,907	82	92%
		洋	2,164	16	87%	1,986	14	89%	19,094	19	112%	17,792	16	114%
		計	13,202	99	87%	14,308	99	89%	98,407	99	91%	106,699	99	95%
アナログ ディスク	アナログ ディスク	邦	5	0	47%	7	0	42%	73	0	140%	135	0	178%
		洋	13	0	282%	22	0	253%	75	0	106%	102	0	88%
		計	18	0	123%	29	0	117%	148	0	120%	237	0	123%
カセット テープ	カセット テープ	邦	83	1	79%	69	0	80%	648	1	74%	529	0	77%
		洋	0	0	-	0	0	-	0	0	44%	0	0	60%
		計	83	1	79%	69	0	80%	648	1	74%	529	0	77%
その他	その他	邦	12	0	150%	13	0	131%	134	0	148%	171	0	135%
		洋	12	0	153%	31	0	183%	122	0	92%	268	0	102%
		計	24	0	151%	44	0	163%	256	0	115%	439	0	113%
合 計	合 計	邦	11,137	84	87%	12,412	86	88%	80,168	81	87%	89,742	83	92%
		洋	2,190	16	88%	2,039	14	90%	19,292	19	112%	18,163	17	114%
		計	13,327	100	87%	14,450	100	89%	99,459	100	91%	107,904	100	95%

● 音楽ビデオ

		7 月実績						2014 年 1 月～2014 年 7 月累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD	邦	3,842	83	126%	4,132	72	141%	26,634	84	95%	29,310	71	96%
	洋	83	2	52%	90	2	69%	1,011	3	75%	1,144	3	81%
	計	3,925	85	122%	4,222	74	138%	27,645	88	94%	30,454	74	96%
Blu-ray Disc	邦	671	15	260%	1,505	26	176%	3,828	12	162%	10,423	25	133%
	洋	7	0	76%	16	0	50%	87	0	58%	235	1	53%
	計	678	15	254%	1,522	26	171%	3,915	12	156%	10,658	26	129%
テープ・その他		0	0	24%	0	0	18%	1	0	57%	3	0	57%
合 計	邦	4,513	98	136%	5,637	98	149%	30,463	97	100%	39,735	97	104%
	洋	90	2	53%	106	2	65%	1,098	3	73%	1,379	3	74%
	計	4,603	100	132%	5,744	100	145%	31,561	100	99%	41,115	100	103%

● 音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）

			7 月実績						2014 年 1 月～2014 年 7 月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			13,327	74	87%	14,450	72	89%	99,459	76	91%	107,904	72	95%
音楽ビデオ			4,603	26	132%	5,744	28	145%	31,561	24	99%	41,115	28	103%
合 計	合 計	邦	15,650	87	97%	18,049	89	101%	110,631	84	90%	129,477	87	96%
		洋	2,280	13	85%	2,145	11	88%	20,390	16	109%	19,542	13	110%
		計	17,930	100	95%	20,194	100	100%	131,021	100	93%	149,019	100	97%

● ビデオ（含音楽ビデオ）

			7 月実績						2014 年 1 月～2014 年 7 月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD			6,248	72	98%	9,442	60	107%	46,151	79	89%	68,469	66	92%
テープ・その他			2,412	28	122%	6,220	40	127%	12,625	21	98%	34,923	34	91%
合 計			8,660	100	104%	15,662	100	114%	58,776	100	91%	103,392	100	92%

● オーディオ/ビデオ合計

			7 月実績						2014 年 1 月～2014 年 7 月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			13,327	61	87%	14,450	48	89%	99,459	63	91%	107,904	51	95%
ビ デ オ			8,660	39	104%	15,662	52	114%	58,776	37	91%	103,392	49	92%
合 計			21,987	100	93%	30,112	100	100%	158,236	100	91%	211,297	100	94%

備考 1. 本年実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある
※オーディオレコードのその他は SACD、DVD オーディオ、DVD ミュージック、MD の合計

音楽ソフト

邦楽

アルバム

● プラチナ

Kis-My-Journey	Kis-My-Ft2	2014.07.02	AMC
----------------	------------	------------	-----

● ゴールド

Ø CHOIR	UVERworld	2014.07.02	SML
小田日和	小田 和正	2014.07.02	SML
ピカピカふぁんたじん	きやりーばみゅばみゅ	2014.07.09	WJ
Heart Song II	クリス・ハート	2014.06.25	UM
KETSUNOPOLIS 9	ケツメイシ	2014.07.23	AMC
THE BEST	少女時代	2014.07.23	UM
Tsuyoshi Nagabuchi All Time Best 2014 傷つき打ちのめされても、長瀬剛。	長瀬 剛	2014.07.02	UM

シングル

● ダブル・プラチナ

夏のFree&Easy	乃木坂46	2014.07.09	SML
-------------	-------	------------	-----

● プラチナ

不器用太陽	SKE48	2014.07.30	AMC
オモイダマ	関ジャニ∞	2014.07.02	TE
南部蟬しぐれ	福田 こうへい	2012.10.24	K

● ゴールド

NEW HORIZON	EXILE	2014.07.23	AMC
Top Of The World / Amazing Discovery	SMAP	2014.07.16	V
大利根ながれ月	氷川 きよし	2014.01.29	C
峠越え	福田 こうへい	2014.04.02	K
てーてーてーてーてーてー てれていていてい ~だれのケツ~	舞祭組	2014.07.27	AMC

ビデオ

● ダブル・プラチナ

ARASHI Live Tour 2013 "LOVE"	嵐	2014.07.30	JA
------------------------------	---	------------	----

洋楽

アルバム

● ゴールド

Yours Truly	アリアナ・グランデ	2014.02.05	UM
-------------	-----------	------------	----

※日付は発売日

認定基準一覧

音楽ソフト（邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ）、音楽配信（着うた®、シングルトラック、アルバム）共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上
以降、100万ごとに賞を設定		

基準単位: 音楽ソフト・枚、配信・DL (ダウンロード)

※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※ **AMC**: エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ / **C**: 日本コロムビア / **JA**: ジェイ・ストーム / **K**: キングレコード / **SML**: ソニー・ミュージックレーベルズ / **TE**: テイチクエンタテインメント / **UM**: ユニバーサルミュージック / **V**: ビクターエンタテインメント / **WJ**: ワーナーミュージック・ジャパン

有料音楽配信

2014 年 1 月度からの認定区分変更に伴い、当月は 69 作品を認定。

本号では、ダブル・プラチナ、プラチナ認定の 11 作品のみを掲載。その他 58 作品の詳細は当協会 HP (<http://www.riaj.or.jp/data/others/chart/w140820.html>) を参照のこと。

(2014 年 7 月 31 日現在)

「着うた®」

邦楽

● ダブル・プラチナ

Hide & Seek	安室 奈美恵	2007.06.01	AMC
ブルーバード	いきものがかり	2008.04.03	SML
Days	浜崎 あゆみ	2008.12.03	AMC

「シングルトラック」

邦楽

● ダブル・プラチナ

気まぐれロマンティック	いきものがかり	2008.11.28	SML
-------------	---------	------------	-----

● プラチナ

ごめんなさいの Kissing You	E-girls	2013.09.25	AMC
WON'T BE LONG	EXILE & 倅田 来未	2006.11.22	AMC
Why ? (Keep Your Head Down)	東方神起	2011.01.26	AMC
友達の詩	中村 中	2006.09.06	AMC
メリクリ	BoA	2004.12.01	AMC
GREEN DAYS	横原 敬之	2007.08.15	AMC

洋楽

● プラチナ

ハッピー	ファレル・ウィリアムス	2014.01.22	SML
------	-------------	------------	-----

※日付は配信開始日

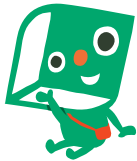
協会からのお知らせ

日本オーディオ協会主催（当協会後援）「オーディオ・ホームシアター展2014」が今年も開催されます。今年のテーマは、今月号でも特集を行った「ハイレゾ・オーディオ」。ご来場者が高解像度の音楽の素晴らしさを実感できる展示会です。当協会は昨年に引き続き、国立国会図書館のデジタル化資料である歴史的音源を公開しているサイト「れきおん」の紹介を目的とするブースを出展します。

「オーディオ・ホームシアター展2014
～ハイレゾリューションオーディオ“音源とその技術”～」
会期：2014年10月17日（金）～19日（日）
会場：「TIME24」TOKYO INFORMART EXPRESS 24
東京都江東区青海2-4-32



詳細はURLをご覧ください。 <http://www.oto10.jp/>



エルマークキャラクター
エルマーくん

THE RECORD No.658 2014年9月号
一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 斉藤 正明
編集人 田口 幸太郎
発行日 2014年9月10日
発行 一般社団法人 日本レコード協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9F
TEL. 03-5575-1301 (代) FAX. 03-5575-1313
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

最近「キュレーション」という言葉をよく目にします。あたかも展示を企画し、テーマに沿って作品を収集する美術館の学芸員（キュレーター）のごとく、インターネット上の膨大な情報を収集・整理し、新しい価値を付与して共有することを指すようです。「情報量が多い」ということは良い面もありますが、選択肢が多すぎて処理しきれないのは事実。ある種の不自由さから生まれた現代のサバイブ術とも言えそうです。

「ハイレゾ」もしばしば「情報量が多い」と言われます。しかしこちらは、聴くたびにたくさんのイメージがかきたえられるのは、音楽が単に脳で処理される情報だけではなく、心で感じるものだからでしょうか。アーティストの熱や呼吸、場の興行きや臨場感……。人間の持つ想像力とはなんと自由で、なんと豊かなことかと実感します。(M)